

### 第3回 都立高校の魅力向上等に係る懇談会 議事要旨

日 時：令和8年3月3日（火曜日） 15時00分から17時30分まで

会 場：都庁第一本庁舎 42階 特別会議室 B

出席委員：11名（欠席2名）

【非公開形式に関する注記】

本懇談会は、委員間の自由闊達な意見交換を確保するため、議事の「その他報告」までを公開とし、「都立高校に求められる役割」に関する意見交換は非公開形式で実施した。議事要旨については、委員からの主な意見・指摘を中心に整理し、公表する。

#### 1 開会

○事務局より開会の挨拶および会議運営方法等の説明

○初回出席委員について紹介

#### 2 議事

（1）「グローバル化やデジタル化等に対応できる人材づくり」について

事務局からの説明に対して、委員から次のとおり発言があった。

##### ① 専門部会における検討内容の報告

- ・職場体験などを通じ、子供たちは「お金」に関心がある。商業高校が金融教育で世界と結び付くことは、子供だけでなく保護者や教員にも分かりやすいメッセージとなる。
- ・商業高校において IB 教育と国際金融教育を掛け合わせることは親和性が高いと感じている。一方で、DP 導入に当たっては科目の読み替えや時間数確保などの課題があり、生徒の負担増にも配慮が必要と考える。
- ・AI 等の関係を考えると、今後、金融の在り方は大きく変革していくことが考えられ、AI 時代における金融の意味づけや役割はしっかり議論する必要がある。その中で、商業高校において何を学ぶのか、経済学や経営学へのつながりも考慮すべきであると思う。
- ・金融そのものの中核的な概念や経済学の概念といったものをいかに学んでいくかが今後重要になってくるのではないかと。AI 等との関係は特に金融の分野では避けて通れないと考えられるため、議論を深めていくことが必要
- ・商業高校で IB と金融教育を組み合わせることは興味深い。世界では若年層から金融教育を行っている例もある。簿記からのアップデートが必要である。
- ・商業高校は商業高校、工業高校は工業高校となりがちであることから、専門高校のネットワークが繋がっていくような形になると面白いと思う。

##### ② 都立工科高校における取組説明（東京のまちづくりに係る人材育成）

- ・名称を「工業高校」から「工科高校」に変更したことは、イメージアップに一定の効果があったと考える。一方で、かつて高倍率であった建築科は低倍率となり、デザインや情報関係の倍率が上がっているなど、工科高校は今は過渡期であると感じている。
- ・建築関係のみならず、産業界で多様な分野とつながりが持てるように検討すべきではないか。また、高等専門学校や大学の工学部との関係性も含めて、工科高校で何を学ぶのかについて議論を深める必要がある。
- ・工科高校は各校で特色があり、そこがうまく伝わるとよい。保護者世代を含めたイメージ転換がとても大切であり、保護者の目線で取り組むことも必要

## (2) 「多様な生徒を確実に支えるしくみづくり」について

事務局からの説明に対して、委員から次のとおり発言があった。

- ・チャレンジスクールの生徒は皆多様で繊細であり、誰一人取り残さないという点で必要な学校である。また、将来の社会的自立を最も大事にしていかなければならない。
- ・学校現場では、様々なことが登校のきっかけとなっている。生徒の抱える困難に対し、更に早期での発見や学校外の支援とつなぐことも重要である。
- ・多様な生徒として想定されている層はとても広い。その特性や背景に応じた支援の重点やアプローチの整理も必要である。また、履修の自由度の向上や評価方法の多様化など、制度や学びの設計そのものの課題解決の視点も論点となり得る。
- ・子供たちの居場所や安心できる学びをどのように保障していくかを軸とした政策にも期待
- ・今後、チャレンジスクール等の学校種に着目した分析等もみていきたい。
- ・教育と福祉、医療が連携できていないことがもったいない。様々な人が出会える機会が増えくると、それを通じて自分が生きやすくなるということもあると思う。
- ・生徒が社会に出てから困らないよう、卒業後のキャリアを含めた議論が必要である。
- ・東京は学校選択の幅が広い強みがある。一方で、多様な学校がまだ十分に知られていないかもしれない。広報に力を入れていく必要がある。例えば、不登校の傾向がある中学生や中学校に、チャレンジスクールやその生徒の様子を知ってもらう機会を増やすことは、彼ら彼女らへのエンパワーメントになり、また学校の実験が増えていくことになる。

## (3) その他報告

事務局からの説明に対して、委員から次のとおり発言があった。

- ・子供たちに目標を押しつけることがないよう議論をすることが大切
- ・教員研修について、メモをとって教わる昔型の研修が多いが、ワークショップ形式になると楽しく体験をしながら考え始める研修になる。このような形に変わってくるとよい。

### 3 その他

国の動向やこれまでの議論も踏まえ、今後の「都立高校に求められる役割」について意見交換を行い、委員からは次のとおり発言があった。

- ・高校は、ほぼ義務教育と同じような状況になっているが、義務教育ではない。義務教育機関とは異なり、強みの種や自分がどういう方向に進みたいかを定めることができるという点で、高校はとても重要と考える。
- ・高校の魅力化を考えるうえで、東京都の高校教育のヴィジョンについて委員間で共有することが大切
- ・都立高校は、多様な高校が準備されている。都立高校の一番の強みはその多様性であり、私立にはない強みだと思う。
- ・都立高校でも、自分の状態を踏まえ、学びを柔軟に組み立てられる仕組みがあると、生徒は様々なキャリアを描ける。
- ・インターンシップや職業体験、ジョブシャドウをより多く実施することで、将来自分は何に進んでいきたいかということのヒントを得られる。そうした機会をもっと増やしていくべきだと思う。

### 4 事務連絡

#### ○事務局より

本日の議論を踏まえ、今後の検討の方向性について事務局より以下のとおり説明

- ・商業高校 1 校において、国際金融教育を学べるコースと I B 教育を学べるコースを設置
- ・工科高校と産業の団体との連携強化
- ・多様な生徒を確実に支える支援の検討
- ・専門部会においては、学校現場の状況や生徒の学びへの影響を踏まえながら、実効性のある施策案を検討。

#### ○次回開催日程について

- ・第 4 回は令和 8 年 5 月以降に開催予定。

### 4 閉会